

令和元年（2019年）10月 9日

豊中市長 長内 繁樹 様

豊中市廃棄物減量等推進審議会
会 長 渡辺 信久

一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について（答申）

平成30年（2018年）8月7日付けで、本審議会に対して意見を求められた事項について、別紙のとおり答申します。

豊中市廃棄物減量等推進審議会意見答申

第3次豊中市ごみ減量計画の総括について

第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理について

令和元年（2019年） 10月

豊中市廃棄物減量等推進審議会

1. はじめに

豊中市では、「協働とパートナーシップに基づき『もったいない』のこころでつくる循環型社会』を基本理念に掲げ、平成22年度（2010年度）に「第3次豊中市一般廃棄物処理基本計画」、平成23年度（2011年度）にごみ減量のアクションプランである「第3次豊中市ごみ減量計画」を策定しました。ごみの量を令和2年度（2020年度）には平成21年度（2009年度）より20パーセント削減することを目標に、市民・事業者・行政の三者での取組みを進め、この結果、ごみの量は平成26年度（2014年度）までは順調に減少しましたが、近年は大規模集合住宅の建替え等による人口増加の影響もあり、ごみの量は増加傾向に転じています。

また、豊中市を取り巻く環境の変化に的確かつ柔軟に対応したまちづくりを進めていくために、「豊中市一般廃棄物処理基本計画」の上位計画である「豊中市総合計画」及び「豊中市環境基本計画」の見直しに伴い、上位計画との整合性を図り、将来の循環型社会・低炭素社会の実現に向けた長期的・総合的な取組みをさらに進めるため、「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」及び「第4次豊中市ごみ減量計画」を平成30年3月に策定しました。両計画では、「協働で取り組む循環型社会の構築」を基本理念に定め、令和9年度（2027年度）には平成28年度（2016年度）実績より焼却処理量を8%削減することを目標とし、さらなるごみの減量に向けた取組みを進めています。

本審議会は、前計画の「第3次豊中市ごみ減量計画」の総括、また、新たに策定された「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理の進め方について、意見を求められたものです。

本審議会においては、循環型社会形成推進基本法をはじめ、これと前後して制定・改正された資源有効利用促進法や個別リサイクル法、また、社会情勢や市のごみ処理・リサイクルの現状を勘案し、「第3次豊中市ごみ減量計画」に基づき取組みを進めてきた施策を評価するとともに、「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理の進め方について審議しました。

2. 審議経過

審議会において、前計画の「第3次豊中市ごみ減量計画」の総括について審議したのち、現行計画の「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について審議しました。

3. 審議結果

「第3次豊中市ごみ減量計画」の総括及び「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について審議した結果は以下のとおりです。

(1) 「第3次豊中市ごみ減量計画」の総括について

①ごみの量

年度	平 21 年度 (基準値)	平 29 年度 (実績値)	平 29 年度 (目標値)	令 2 年度 (目標値)
ごみの量	115,551t	105,331t	100,250t	92,308t
削減率	0%	8.84%	13%	20%

・ごみの量・・・資源化されず焼却・破砕される量（焼却処理量＋スリーＲ・センターでの破砕等処理量）
 ・削減率・・・平成 21 年度（2009 年度）のごみの量を基準とした年度ごとの比率

ごみの量は、計画策定時から平成 26 年度（2014 年度）までは減少傾向だが、近年は微増傾向となっています。これは、第3次豊中市一般廃棄物処理基本計画策定時に想定していた人口より、実際のそれが増加していることによるものです。

計画の目標値に達しておらず、計画策定時に想定した豊中市、伊丹市の人口を基に建設した焼却施設に余力を持って処理することが困難な量が搬入されていることから、可燃ごみの削減が喫緊の課題です。

②家庭系ごみ排出量・市民 1 人 1 日あたりの量

年度	平 21 年度 (基準値)	平 29 年度 (実績値)	平 29 年度 (目標値)	令 2 年度 (目標値)
家庭系ごみ 排出量	82,829t	79,195t	75,227t	71,854t
市民 1 人 1 日 あたりの量	584 g	546 g	577.3 g	567.1 g

・家庭系ごみ排出量・・・豊中市伊丹市クリーンランドへの家庭系ごみ搬入量＋集団回収量
 ※平成 32 年度(2020 年度)以外は各年度の実人口を使用して算出、平成 32 年度(2020 年度)は計画策定時の想定人口（約 34.7 万人）での算出

家庭系ごみの市民 1 人 1 日あたりの排出量は、平成 24 年度（2012 年度）から実施した新しい分別・収集の開始に伴う分別方法に関する出前講座の実施等により、市民意識の向上やごみ減量の実践につながったことから、減少傾向にありました。平成 28 年度（2016 年度）に条例の一部を改正し「再生資源等持ち去り行為の禁止規定」を

施行したことにより、市民1人1日あたりの排出量は増加したものの、計画値に達していません。

市民1人1日あたりの量は、最終目標年度（令和2年度（2020年度））の目標値に達しているものの、人口が微増傾向にあるため、家庭系ごみの総排出量については、目標値に達しておらず、さらなる取組みの推進が必要です。

③事業系ごみ排出量

年度	平 21 年度 (基準値)	平 29 年度 (実績値)	平 29 年度 (目標値)	令 2 年度 (目標値)
事業系ごみ 排出量	45,619t	44,055t	41,911t	38,725t

・事業系ごみ排出量・・・豊中市伊丹市クリーンランドへの事業系ごみ搬入量 + 庁内古紙回収量等

事業系ごみの排出量の増加については、近年、福祉施設が増えたことにより、水分が多く含まれる紙おむつ等の排出量が増加していることが要因と推察されます。今後も高齢化社会に伴って紙おむつ使用量の増加が見込まれることから、環境省が作成予定のガイドラインなどを注視する必要があります。

④再生資源の量

年度	平 21 年度 (基準値)	平 29 年度 (実績値)	平 29 年度 (目標値)	令 2 年度 (目標値)
再生資源の 量	15,317t	19,249t	18,295t	20,450t

・資源化量・・・家庭系ごみ及び事業系ごみの内、資源化されるごみ量

再生資源の量は、平成24年度（2012年度）から実施した家庭系ごみの分別区分の拡大（空き缶、プラスチック製容器包装、ペットボトルなど）により、増加しましたが、その後は、減少傾向となっています。平成28年度（2016年度）に条例の一部を改正し「再生資源等持ち去り行為の禁止規定」を施行したことによる効果やこれまで継続してきた分別周知活動により、排出量が増加し、平成29年度（2017年度）の目標値は達しています。

しかし、最終目標年度（令和2年度（2020年度））の目標値には達しておらず、集団回収量の増加や可燃ごみに多く含まれる紙ごみの分別などに取り組む必要があります。

(2)「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について

○「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理については、目標の達成に向けた施策を立案し実行したことを評価するとともに検証結果で見えた課題の解決を図るといったPDCAサイクルに沿って引き続き進める必要があります。

具体的には、「第4次ごみ減量計画」(Plan)に基づき、減量目標及び個別目標の達成に向けたごみ減量施策を実施し(Do)、その進捗状況や要因分析を行うとともに市民・事業者等に評価や意見を求め(Check)、寄せられた意見等を踏まえ次年度の事業内容について検討し(Act)、新たな施策を立案するという計画的な進行管理が望まれます。

○計画の進捗状況を周知する際には、分かりやすい用語やグラフ等を用いて、市民・事業者等が理解しやすい表現にすることを求めます。

○今後とも豊中市の基本理念である「協働で取り組む循環型社会の構築」に向け、地域コミュニティを活用するなど、市民・事業者とともに「第4次豊中市ごみ減量計画」に定めた目標達成のために一層の努力を進めることを要望します。

参考資料

第4次ごみ減量計画の減量目標及びモニター指標

【減量目標】

目標	平成28年度（2016年度）実績
ごみの焼却処理量を令和9年度（2027年度）には平成28年度（2016年度）実績より8%削減	約104千 t / 年 ※豊中市伊丹市クリーンランドにおいて焼却処理されるごみの年度合計量

【個別の目標】

目標	平成28年度（2016年度）実績
家庭系ごみ1人1日当たり量（再生資源除く）を令和9年度（2027年度）には平成28年度（2016年度）実績より約28 g 削減	約414 g / 人 / 日 ※豊中市伊丹市クリーンランドへの家庭系ごみ搬入量（再生資源を除く）の1人1日当たり量
事業系ごみ量（再生資源除く）を令和9年度（2027年度）には平成28年度（2016年度）実績より約5千 t 削減	約43千 t / 年 ※豊中市伊丹市クリーンランドへの事業系ごみ搬入量（再生資源を除く）の年度合計量
リサイクル率を令和9年度（2027年度）には平成28年度（2016年度）実績より約3.6%増加	約15.7% ※ごみの総量（発生量（再生資源含む））（年度）に対する家庭系及び事業系ごみのうち資源化されるごみの合計量（年度）の割合（民間の自主的回収量を除く）

【モニター指標】

市民・事業者・行政の協働による循環型社会の構築

具体的施策	番号	指標（単位）	指標の示すもの
環境学習・教育の充実	1	全公立全小学校・認定こども園環境学習実施件数（件）	幼少期からの環境学習によるごみの減量を図る
	2	廃棄物減量等推進員の環境学習への参加人数前年度比像（人）	地域における環境学習へ参加
環境配慮型販売システムの推進	3	豊中エコショップ認定店舗の新規認定件数（件）	エコな取り組みを実施する事業者の増加とその店舗を利用する市民への周知
	4	意見交換会参加人数（人）	エコショップにおける事業者間の情報共有や連携
食品ロスの削減に向けた取り組み	5	イベント回数数（回）	市民等にイベントを通じて取り組みを周知
	6	認定こども園等年長児の保護者への冊子等の配布人数（人）	環境学習の対象者及びその保護者への周知
	7	認定こども園等年長児への絵本等の配布人数（人）	環境学習の対象者へ周知
3Rに取り組む市民活動団体やグループ活動等との連携強化		（指標なし）	

家庭系ごみ減量等に関する取り組み

具体的施策	番号	指標（単位）	指標の示すもの
地域での3R活動の活性化	8	廃棄物減量等推進員活動参加人数（人）	廃棄物減量等推進員の活動への参加を図る
発生抑制・再使用の推進	9	マイバッグ持参率（％）	マイバッグ持参率向上による可燃ごみ、プラスチック製容器包装の発生抑制
	10	リユースイベントの開催数（回）	ごみとなるものを再使用することによりごみの減量を図る
再生資源集団回収の推進	11	新規登録団体数（団体）	地域での3R活動の活性化を図る
多様な再生資源回収方法の構築	12	リサイクル率（％）	回収拠点を増やす等により、リサイクルを促進する
	13	堆肥化に係わる講座の受講者数（人）	生ごみの堆肥化を促進をすることによる可燃ごみの減量
適切な分別排出の浸透	14	出前講座等開催回数（回）	排出者へごみと再生資源の分け方、出し方の知識を高める
家庭系ごみの有料化の検討		（指標なし）	

事業系ごみ減量等に関する取組み

具体的施策	番号	指標（単位）	指標の示すもの
ごみ減量に向けた情報提供	15	業種別研修会開催数（回）	事業者の業種別に研修を行い、業種の特性に応じたごみの減量を促す
多量排出事業者におけるごみ減量の促進	16	立ち入り調査件数（件）	対象事業所の適切な分別と再生資源の増加を図る
	17	訪問調査・該当事業者評価B以上の事業者の割合（％）	立入評価のランク付けによる評価を向上させ、ごみの減量を図る
搬入物調査の活用	18	搬入物調査回数（回）	焼却施設等に搬入されるごみを適正に搬入するよう促す
中小規模事業者における分別排出の推進	19	リニュースの発行回数（回）	事業者にごみ減量を促す情報を発信
	20	再生資源共同回収事業及び機密文書溶解参加事業所数（件）	事業者の紙ごみの減量を促す
食品廃棄物リサイクル等の推進		（指標なし）	
イベント系ごみの発生抑制及び再使用の推進	21	分別促進用具貸出利用回数（回）	イベント等におけるごみの減量促す
ごみ処理費用負担の適正化		（指標なし）	

廃棄物の適正処理の推進

具体的施策	番号	指標（単位）	指標の示すもの
時代の要請に応じた分別収集体制の推進	22	リサイクル率（％）	回収拠点を増やす等により、リサイクルを促進する
	23	委託業者調整会議開催数（回）	委託業者と連携し、ごみの減量を図る
	24	新規介護事業者への周知件数（件）	高齢者等への支援として、ふれあい収集事業を周知し、ごみの分別排出を図る
安定した中間処理施設等の運用	25	焼却処理量（t）	ごみ処理施設における可燃ごみの削減
	26	ごみ処理施設との協働による環境学習・見学会実施件数（件）	幼少期からの環境学習によるごみの減量を図る
	27	最終処分量（t）	ごみの減量による最終処分場の延命化を図る